

(酒田市松本鶴子氏蔵)
(部分図)

建物は煉瓦造りの力
フレーと料亭(オバタ)
だが坂の斜面と遺景の
松が建物と調和し、色彩もよく、酒田の特色ある建造物として残してもらいたい。

日 和 山 坂
佐藤昌祐
(蒼騎会代表)
十三回卒業
誠に思い出深い風景
この坂をスケートで
滑り降りた子供の頃。
坂の下のグランド
で、酒商などと行った
野球試合・応援団・花見。

一月七日昭和天皇の崩御をもって昭和の時代は終り、元号は平成と改められました。一月二十四日には降りしきる冷雨の下、ご大喪の礼が国民悲しみのなか厳かに行われました。波乱万丈の昭和史とともに亡き天皇に対し深く哀悼の意を捧げる次第であります。

東京亀城会の皆様には健祥にて、ご活躍のこと心からお喜び申し上げます。日本は世界経済の正常化に向けて平成時代を迎えたわけ

あります。庄内瀬の建設も工事が急ピッチに進んでいるそうですが、幕開けであります。新しい時代への

あります。ふるさと創生論も地方が恵を出し、中央がこれを支援するという形で動き始めています。

第九号発行のご挨拶



東京亀城会会長 若林義治



発行所

東京亀城会

東京都港区南青山5-9-12
アイサワビル 306号 TEL 03-3407-107阿部謙一事務所
電話 (400) 111-511
郵便番号 東京4-24020
発行人 若林義治
編集人 佐々木高一
定価 1部 150円



父、大川學而
大川 龍太郎(二十一回卒業)

私が中学校に勤めていると
知ったのは、いつ頃だったる
が。家は廢墟にあって、す
ぐまえを旧国道が走ってい
た。父が朝自転車でその旧国
道を酒田の方へ出掛けに行く
のを、幼い私が門のところで
見送った記憶がある。私が数
えの四年の時、西野に居を移
したが、父は相変わらず自転
車で出勤していた。

私が小学校に入る前だか
ら、昭和六年が七年だと思う
けれども、今日は宿だから
いっしょに泊ろうと言つて、
例の自転車で中学校に連れて
行って貰つたことがある。
記憶は途切れ途切れになつ
てしまつたが、嬉しいのと珍
しいのとワクワクしながら、
しばらくは事務室の父の
側で神妙にしていたものの、
だんだん退屈になつてウロコ
ヨロし出すと、見兼ねてまだ
若かった五十嵐理七さん(私
が酒中)在学中に応召、戦病死
された)が、校内を案内して
くだけたことと、放課後に
父が宿直室で碁を打つていた
こと、などを覚えている。相
手は斎藤重蔵先生ではなか
たかと思つたが、これは無論後
で知つたことである。

夕食は、小松小使さんが運
んで来てくれた。小松小使さ
んは、家に来たことがあるの
で知つていて。

その後は父といっしょに寝
たが、翌日どうしたのだった
か、今では綺麗に忘れてしま
っている。

昭和十五年四月、私は酒中
に入学した。登校途中でいつ
つと前までは。

将軍の一人称は「我輩」
工藤 宜(二十四回卒業)



工藤 宜

(二十四回卒業)

日本軍が無条件降伏をするわ
けはないから条件をつけると
思ふんだ「無条件で」とはいよいよ
わたしは同調した。このあとどうしようもうに話
が展開したかは正確に記憶し
てない。たしか「負ける」
とはいわなかつたはずであ
る。「勝つ」とは信じること
もしくも「負け」などとはい
えない。

「なんだ」

「さあ」

「これからどうなるだろう

か」

「さあ」

「これからどうなるだろう

か」

「さあ」

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

か

インドネシア勲章受章

—金子智一氏(八回卒)—

金子智一氏(八回卒)のインドネシア共和国が功労勲章ナラリア受賞記念パーティーは、四月七日午後六時から東京、明治神宮外苑、日本青年館で祝い会発起人代表、元

ナラリア受賞記念パーティー功労勲章ナラリヤは、イン

シネシア共和国と民族に對

して多大の貢献をした人に受

与されるもので、金子氏の昭

和十七年三月陸軍報道班員と

してジャワ島上陸以来、五十

六年間にわたる同國と日本と

の交友に尽力した功績が認め

られたもの。

福田氏は祝賀の中で「金子

さんが、インドネシアの独立

運動に挺身協力されたとい

うとしない。それが今回の受

賞で、インジネシア側がいか

に高く評価していたかが実証

され、またことに喜しい」と

話し、会場一同に感銘をあ

えた。

金子氏は、酒中卒業後、里

見日本文化研究所に入所、ジ

ヤワ派遣陸軍報道班員、終戦

後インドネシア独立運動に協

力、復員後は遊佐町助役など

を勤めたあと上京、平凡社社

長秘書を経て、日本ユース・

ホステル協会創立現在常顧

を勧めたあと上京、平凡社社

